

教育プログラム・コースの概要

大学名等	東京医科歯科大学医歯学総合研究科大学院						
教育プログラム・コース名	がんゲノム医療人材養成コース（正規課程）						
対象職種・分野	医師						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	がん個別化医療の現状の問題点を理解し、創薬等を通して対応を行うことができる医療者の養成を目指す。						
修了要件・履修方法	本コースで定める科目について、対面授業、オンライン授業、シンポジウム、セミナー、オンライン症例検討会（エキスパートパネル）、患者実習等を履修し、試験やレポート、指導教官との討論等を通して評価を行う。						
履修科目等	<p><座学（必修科目）> がんゲノム医療イントロダクション、ゲノム・遺伝子・DNAの基礎、ゲノム解析の方法、シーケンスデータの解析方法、がん遺伝子パネル検査、がんゲノム医療の臨床的有用性講義、シグナル経路総論講義、シグナル経路①RTK（EGFR, HER2, HER3, HER4）、シグナル経路②RTK（ALK, ROS1, RET）、シグナル経路③RTK（FGFR, KIT/PDGFR, MET/VEGFR）、シグナル経路④PI3K経路、シグナル経路⑤MAPK経路、シグナル経路⑥WNT, NOTCH, HEDGEHOG経路、シグナル経路⑦Cell cycle, TP53、シグナル経路⑧DNA修復、MSI, LOH、シグナル経路⑩Epigenomics、シグナル経路⑪Metabolic pathway講義、二次的所見と遺伝性疾患、C-CATへのデータ共有と利活用、検体の品質管理</p> <p><演習（選択科目）> エキスパートパネル、患者実習</p> <p><セミナー/シンポジウム> 一線級の専門家による創薬や全ゲノム解析等に関するセミナー/シンポジウム</p>						
がんに関する専門資格との連携	腫瘍内科専門医（日本臨床腫瘍学会学会）、分子病理専門医（日本病理学会）遺伝性腫瘍専門医（日本遺伝性腫瘍学会）の研修施設として認定。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	本コースは、がん個別化医療の初学者が、基礎から最先端の応用まで一気通貫で学ぶ事ができ、また、座学のみならず、実習・演習を通し高い応用力の養成を目指す。						
指導体制	連携校の各領域（臨床腫瘍学、がんゲノム、病理学、臨床遺伝学、看護学、薬学など）のエキスパートが合同でコースの座学、実習、演習を担当する。						
修了者の進路・キャリアパス	<p>【がん個別化医療に携わる医療人】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各施設にて、がん個別化医療に精通した医療者として活躍 <p>【想定される専門職】</p> <p>がん薬物療法専門医、臨床遺伝専門医/遺伝性腫瘍専門医、創薬の専門家（製薬メーカー等）、バイオインフォマティクス専門家等</p>						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small>	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	2	2	2	2	2	10
受入目標人数設定の考え方・根拠	がんゲノム医療拠点病院としての東京医科歯科大学と連携している病院が現在3病院あり、合計4施設となる。それらの病院へ配置する医師を2名ずつ配置することを目標とすると8名養成する必要がある。また、過去の志願者数及び入学ニーズ調査から考慮し、受入れ目標人数を10人と設定。						
履修者数 <small>※当該年度に「新たに」入学した人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small>	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0						0